

3つの柱 3 環境や社会のためになる活動・事業モデルを促進します

SDGsの考え方を大切に、これまですすめてきた環境活動や社会貢献を組合員、地域と共に更に発展させ、ますます参加の輪が広がる「まちくらし」



令和6年能登半島地震の被災地支援に取り組んでいます

1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」では、多くの方が被害に遭われ、家屋や建物の倒壊などは広範囲に及びました。これを受け、店舗では1月6日から募金箱を設置。宅配では1月9日からチラシを配布し募金の協力を呼びかけました。ハート基金(コープこうべ災害緊急支援基金)からは5つの団体に400万円を拠出し、ボランティアセンターの運営や活動に活用されています。また1月14日からは、全国の生協の仲間と共に40人を超える職員が被災地の生協「コープいしかわ」で宅配センター業務を中心とした支援を行いました。



電車で「コープいしかわ」の応援に向かう職員

組合員と共に生徒を応援しています

2024年3月に、奨学金制度(2021年度にコープこうべの事業としてスタート)79人が高等学校などを卒業し、奨学金「てとて」の給付終了を迎えました。



エコファームでの交流会

卒業した奨学生は大学・専門学校への進学や就職と、新たな道に歩みをすすめています。

若者の未来を共に支え、応援する組合員の参画の輪が広がり、年間で約580万円の善意が集まりました。



9月集中募金を呼びかける『めーむ』紙面

平和の尊さを伝える活動をすすめました

次世代を担う子どもたちが平和について学び考えることを目的に、7月に「虹っ子平和スタディツアーin福島」、8月に「長崎平和のキャンパ寄贈の旅」、2024年3月に「広島平和サイクリングの旅」を実施。のべ18人の中学生・高校生が参加しました。

参加者の有志が、活動を通じて学んだことや教訓などを報告書にまとめました。平和の尊さを考える機会になりました。



原爆ドームの前で、平和ガイドから当時の状況を聞く参加者

障がいのある方を対象に不安の解消やスキルアップのための研修会を開催しました

コープこうべで働く障がいのある方を対象に、「十人十色」研修を実施しました。「私らしく」働くためのコミュニケーションスキルやマナーを学ぶとともに、他所属の仲間と交流を図りました。

仕事の不安を解消し、今後の仕事に対するモチベーションを高める機会になりました。



研修を通じて業務のスキルアップや交流ができました

障がいのある方の活躍を支援しています

宅配や店舗、本部などで障がいのある方や働きづらさを抱える方の活躍の場が広がっています。コープ西神南や芦屋市保健福祉センター内で就労体験の場として「めーむひろば」を活用するなど、誰もが働きやすい社会・職場づくりに努めています。



「めーむひろば」を運営する福祉作業所の利用者の皆さん(コープ西神南)

誰もが安心して買い物ができるように

コープこうべの店舗では2020年から、聴覚に障がいのある方がお買い物に困らないよう、指さしボードを使って会話をする「コミュニケーション支援ボード」をレジに設置しています。

宝塚ろうあ協会や店舗職員の意見をもとに、サービスコーナーで使用する支援ボードを新たに作成し、全店舗で運用を開始しました。誰もが安心して買い物ができる店舗の環境づくりをすすめています。



サービスコーナーでボードを活用し対応する職員(コープ六甲)

「つながるマルシェ」を開催しました

コロナ禍で商品の販売機会が減った福祉作業所に、店舗のスペースを提供して販売会を行う「つながるマルシェ」が定着しています。

現在、41店舗に広がりました。商品の販売を通じて、心身に障がいのある方たちの地域との交流や、やりがいにつながっています。



手作りの商品を購入する組合員(コープデイズ豊岡)

子会社「株式会社コープエコファーム」を設立しました

7月、三木市にある(有)みずほ協同農園の株式を全て買い取り、11社目の子会社「(株)コープエコファーム」を設立しました。フードブランド野菜の産地として、これまでと同じく資源循環型の野菜作りに取り組んでいきます。

また農業を志す人の育成にも力を入れていくほか、多くの組合員や地域の皆さんが集い、楽しめる場にしていきます。



(株)コープエコファームの設立記念式典(右上も)



さつまいもの収穫を楽しむ組合員



「地域つながるフォーラム」を開催しました

多様な個人・団体のつながりから社会のあり方を考えるイベント「地域つながるフォーラム」を9月に開催し、171人が参加しました。

俳優のサヘル・ローズさんが戦争孤児になった経験や来日後に助けてくれた人への思いなどについて講演。

またサヘル・ローズさんを囲んでパネルディスカッションも実施。改めて人や社会とのつながりを考えるきっかけとなりました。



サヘル・ローズさん(左から2番目)も参加したパネルディスカッション

コープの森・社家郷山の取り組みが林野庁長官賞を受賞しました

コープこうべが取り組んでいる「コープの森・社家郷山」(西宮市)の活動が、国土緑化推進機構主催の令和5年度全国育樹活動コンクールで「林野庁長官賞」を受賞しました。兵庫県、西宮市、兵庫県緑化推進協会とコープこうべの4者は2008年、「企業の森づくり活動への取り組みに関する協定」を締結。これをもとに、兵庫県「企業の森づくり制度」の第1号としてコープの森・社家郷山の整備を開始。15年間にわたる市民参加型の育樹活動が評価されました。



森を守るボランティア活動に関わる組合員・職員

「環境事務次官賞」を受賞しました

消費者庁・環境省が主催する令和5年度食品ロス削減推進表彰において「環境事務次官賞」を受賞しました。

家庭で使いきれない食品を必要としている方にお渡しする「フードドライブ」や、消費期限・賞味期限の近い商品から順に購入する「てまえどり」など、これまで組合員の皆さんと取り組んできた食品ロス削減に関するさまざまな取り組みが評価されました。



「てまえどり」のきっかけとなった食品ロス削減活動を行う第1地区「e買うプロジェクト」の皆さん

「フードドライブ」を実施し食品を必要としている方に届けました

家庭の余剰食品を宅配や店舗などで受け付け、フードバンクなどに寄贈する取り組み「フードドライブ」を各地区で実施しています。コープミニを除く全ての店舗で常時受け付け(※コープミニルミナス箕面は実施)をしており、宅配を含めて年2回の集中受け付けキャンペーンも実施。2023年度は約55tの食品が集まりました。寄せられた食品は各地区本部などを経由して、子ども食堂や食支援を行う団体に寄贈しています。



家庭で余った食品を宅配の地域担当に渡す組合員

「ひょうご地魚推進プロジェクト(とれぴち)」は10周年を迎えました

「とれぴち」は兵庫県漁業協同組合連合会と連携(兵庫県が後援)し、店舗や宅配での商品普及活動や学習会などを通じて兵庫県産の魚のおいしさや食べ方を伝え、食文化の継承や豊かな海づくりをめざす取り組みです。10周年を機に、各地でイベントやキャンペーンを実施。今後も地元の魚をおいしく食べる方法や地産地消の大切さを伝え、漁業や生産者、環境を守ることに繋がっていきます。



地元の魚を使った調理方法を学ぶ組合員(協同購入センター丹波)

広報力を高めていくよう取り組みました

広報力向上をめざし、動画やSNSを活用したコミュニケーションの強化に取り組みました。広報紙の企画と連動し、7月に設立した(株)コープエコファームの魅力を伝える動画を職員が制作。10月には育児中の職員がワークショップを行い、育児に便利でおいしい商品をSNSで投稿しました。2024年2月には「コープ商品CMコンテスト」を開催。それぞれの作品はSNSで発信、店舗に掲示するなど、広報強化に取り組んでいます。



エコファームの魅力を伝える動画を撮影する職員

使用済みつめ替えパックの リサイクルを啓発しました

コープこうべを含む18の民間企業と神戸市は、洗剤やシャンプーなどのつめ替えパックを再びつめ替えパックにリサイクルする「水平リサイクル」をめざす「神戸プラスチックネクスト」に取り組んでいます。その一環として、2024年2月に「神戸プラスチックネクスト in コープこうべ」のイベントを開催しました。約300人が参加し、海洋ごみ問題を考え、プラスチックの分別を体験するなど、楽しみながら学びました。



つめ替えパックを持参し、回収BOXに投入(コープデイズ神戸北町)

「消滅型生ゴミ処理機」を 店舗に設置しました

店舗での新たな食品廃棄物削減の取り組みとして、「消滅型生ゴミ処理機」をコープデイズ豊岡に設置しました。

店舗から出る生ゴミのおよそ8割が処理可能で、微生物の力で水と空気に分解します。食品廃棄物の削減だけでなく、廃棄物の収集運搬および焼却処理時に発生するCO₂の削減にもつながっていきます。



処理機に野菜くずなどを投入する職員(コープデイズ豊岡)

エコファームの食品リサイクルの 取り組みを強化しました

エコファームでは、店舗から野菜くずなどの生ごみを集めて作ったたい肥で野菜を育て、再び店舗や宅配で供給する食品リサイクルループに取り組んできました。

2024年3月、食品リサイクルを更に推進するため、老朽化していた「コープ土づくりセンター」の稼働を終了し、「大栄環境(株)」にたい肥化業務を委託。これにより回収対象店舗を49店舗から59店舗に拡大し、更なる食品廃棄物の削減をすすめています。

■エコファームの新たな食品リサイクルループ図



環境チャレンジ目標 エコチャレ2030

目標年度：2030年度

2030年に向けた環境チャレンジ目標を
2018年度に策定し、取り組みを推進しています。

チャレンジ1 事業活動における
CO₂排出量を半減!
2050年度には、排出量
実質ゼロをめざす!

チャレンジ2 事業活動における
食品廃棄物を半減!

チャレンジ3 事業活動における
プラスチック使用量を
25%削減!

チャレンジ4 環境に配慮した
エシカルな商品やサービスの
開発・供給推進!

チャレンジ5 組合員とともに
エシカル消費を拡大!

